

り、プラーグシンポジウムでの論文発表をかねてウィーン  
のシンポジウムにも参加する予定で準備をしている。

このように国際的にも放射性追跡法が重視され、水資源の有効な利用、公害などの環境調査への利用をはじめとして、各種の工程解析に今後ますます応用面が開拓されていくものと期待される。(1966年8月10日受理)

文 献

- 1) Proc. of IAEA Conf. on the Use of Radioisotopes in Hydrology, IAEA, (1963)
- 2) 河添邦太郎, ほか; 生産研究 14 5 p. 27~33 (1962)
- 3) 加藤正夫, ほか; 生産研究 14 1 p. 11~18 (1962)
- 4) 加藤正夫, ほか; Radioisotopes 11 4 p. 363~372 (1962)
- 5) R. P. Gardner, et al.; Int. J. App. Rad. & Isotopes 16 2 p. 75~80 (1965)
- 6) 佐藤乙丸; 原子力工業 11 7 p. 27~29 (1965)
- 7) 加藤正夫, ほか; Radioisotopes 15 5 (1966) 印刷中
- 8) 加藤正夫, ほか; 第7回日本 RI 会議報文集 B/④-4 (1966) 印刷中
- 9) Masao KATO, et al.; IAEA Symp. on Radioisotope Tracers in Industry and Geophysics (1966. 11)

(p.23 よりつづく)

- 3) 木下良作: 科学技術庁資源局資料, 第 36 号, (1962. 12)
- 4) 井口昌平: 生研報告, 14 5, (1965. 10)
- 5) Albertson, M. et al.: Proc. ACSE, Hy Division, Vol. 84, (1958. 4)
- 6) Bogardi, J.: Jr. of Geophysical Research, Vol. 66, Oct., 1961.
- 7) Garde R., Albertson, M.: Proc. IAHR, Montreal, Vol. 4, (1959.)
- 8) 杉尾捨三郎: 土木学会論文集, 71, (1960・10)
- 9) Garde, R., Ranga Raju: Proc. ASCE, Hy Division, Vol. 89, Nov., 1963.
- 10) 文献 2)
- 11) Allen, J.: "Scale Models in Hydraulic Engineering", Longmans, Green and Co., (1946.)
- 12) 文献 3)
- 13) 文献 3)

次 号 予 告 (11月号)

研究解説

全自動高精度圧延機.....鈴木 弘  
糊料のレオロジー.....黒 岩 城 雄

海外事情

IFAC ロンドン会議に出席して.....大 島 康次郎

研究速報

風による水槽波高の変化.....田 宮 真  
タンデム圧延機におけるパススケジュールの新しい計算法 (第1報).....鈴木 弘  
鎌 田 正 誠  
Cu-Fe 合金の時効について.....西 川 精 一  
長 田 雄 美  
小 林 繁  
ケイ皮酸の増感異性.....菊 池 真 一  
中 村 賢 市 郎  
前 田 則 義  
地盤注入用各種グラウトの特性の比較.....三 木 五三郎

正 誤 表 (9月号)

頁	段	行	種 別	正	誤
3	右	30	式 (8)	$i(X) = A(X)f(X)$	$i(X) = A(x)f(x)$
5	左	1	" (12-2)	$i_s(X) = \frac{I}{2} \sigma^*(X) \otimes G(X)$	$i_s(X) = \frac{I}{2} \sigma^*(X) \otimes G(\hat{X})$
6	左		表・1	パナトミック X	パナトミック
			"	(20°C)	(20°)
7	右	下1	本 文	表紙写真を参照されたい	表紙写真を参照さいたい
13	右	5	"	4).....	5).....
14	左	4	"	5).....	6).....
"	右	15	"	6).....	7).....
17	左		図・29	"0" 連続読取波形 10mv/div	最下位波形の説明句
19	右	5	本 文	そのほか	のほか
"	"	"	"	あるいは	あるいは
			筆者紹介	渡辺 勝.....理博	渡辺 勝.....工博